

# YNU 経済学部 教育後援会

[特集]

学生支援とキャリア教育



2023 February

## 特別理事（経済学部長）

奥村 綱雄



本年度始めから、経済学部では全面的に対面授業となりました。教室では、隣の席をひとつ空ける、感染を懸念し不安を感じる学生はオンラインにするなど、感染防止に十分な配慮をしております。久しぶりに多くの学生がキャンパスに戻ってきました。学生同士、学生と教員、皆が face-to-face で交流できるようになりました。

最近の経済学部は、「データサイエンスを用いて、グローバルな経済や社会の諸問題に積極的に取り組んでいく人材の育成」にとりわけ力を入れております。そのために、昨年度から、①経済学をベースとしたデータサイエンス能力を身につけるための「DSEP」、②法学・政治学をベースに現代社会の課題を解決する能力を身につけるための「LBEEP」、という二つの教育プログラムを開始しました。従来から推進している海外協定校への留学や英語討論会を活用して、高い英語運用能力を身に着け「GBEEP」教育プログラムもさらに拡充してまいります。

私どもは、これからも、優秀で有為な学生を育成することに取り組んでまいります。教育後援会の趣旨である、保護者の皆様と経済学部との意見交換を進めて経済学部生への支援活動にご賛同いただき、より多くの保護者の皆様が教育後援会に参加していただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 会長 森本 亨

YNU 経済学部教育後援会は、経済学部生の支援を目的とする、経済学部生保護者の組織として 2003 年に設立され、経済学部と保護者間の情報・意見交換を基に、その時の実情に合わせた学生支援を行っています。

その主な支援内容は、海外留学等への旅費支援、キャリア教育支援、災害時奨学援助等で、今年度は、これまで新型コロナウイルスによる感染拡大により、中止となっていました海外留学等が再開となったことから、これに伴う 12 名の会員子女の方に対し旅費支援を実施いたしました。

また、一昨年 of 新型コロナウイルス感染拡大時には、緊急援助として、5 名の会員子女の方に対して、就学支援を目的とする災害時奨学援助金の支給も行っておりました。

このような活動を通じて、YNU 経済学部教育後援会は、経済学部生の充実した学生生活のサポートに取り組んでおります。

冒頭、ご紹介させて頂きました通り、教育後援会は保護者主体の組織であり、その支援活動は、保護者の皆様からのご支援で成り立っています。

今後も更なる支援活動の充実に向け、経済学部の先生方との意見交換・協議を通じて、その時、その時に必要となる支援を心がけてまいりますので、多くの保護者の方のご理解・ご協力を賜ります様、切にお願い申し上げます。

# 学 生生活と就職活動について



就職相談員

木野 恒雄 (1973 年卒)

ご入学おめでとうございます。

私は5年近く学生さんたちの就職相談を担当してきました、木野と申します。(学生支援課就職支援係、キャリア・サポートルームで、対面相談をしています。Zoom 相談もあります)

大学受験を終え、すぐに「就職」という言葉に抵抗感もあると思いますが、大学生活4年間は意外と短いものです。

実際に企業訪問・インターンシップ(企業就業体験)は3年生に入るとすぐに始まります。1年生、2年生の間に情報を整理し、準備を進めた学生さんが早くに内定を勝ち取ります。経済学部では例年6月に、インターンシップ講座を開講しており、具体的な対応指導等を行っておりますので、受講されることをお勧めします。

中学、高校、大学受験を経験してこられた学生さんも、就職活動は初めてでしょう。

学校の入学試験は、おおむね獲得点数で合否が決定します。しかしながら、就職は、社会の適応性、人柄等々、いろいろな角度から選考されます。多くの企業は国内だけではなく、全世界をマーケット対象として活動を継続しており、いろいろな個性の学生、社員を集めています。

横浜国立大学は海外からの留学生が多いのが特徴で、同じキャンパスでの交流は活発に行われております。加えて同学の多くの卒業生が各国で活躍しておりますことも大きな特徴です。

だからと言って、すべてを就活に傾ける、と申し上げているわけではありません。

勉学・クラブ活動・アルバイトをバランスよくこなし、同時並行に、社会人になる気持ちを醸成していくことが肝要です。

そのために、いろいろな方々(先生・先輩・家族・親戚等々)との交流を積極的に行い、「近い将来、社会人になるんだ」との意識を高める工夫をしてください。

具体的には、下記3項目を実践していただきたいと思います。

1

## 新聞を読む

習慣をつける。

スマホから情報を取っている学生さんが多いが、自分の好みに合った情報に偏ることが多いので要注意。

2

TVのニュースや、報道番組を視聴し、

世の中の大きな流れ、を理解しておく。

3

多くの分野の方々と交流を持ち、積極的に会話をし、コミュニケーション能力をつける事。

そのために、多くの疑問と好奇心を忘れずに生活して欲しいと思います。

最後に、就職活動の具体的な企画・アドバイス、各種資料の提供は「横浜国立大学キャリア・サポートルーム」で行っておりますので、早いうちからご利用されることをお勧めいたします。



# 本学のキャリア教育について

高大接続・全学教育推進センター

教授 市村 光之



本学のキャリア教育科目は、近年のグローバル化の進展を踏まえつつ社会に出て活躍できるイノベティブな人材の育成を目指し、多様な科目を提供しています。キャリア科目には、学部の枠を超えて文系・理系、留学生を含め多様な学生が集まります。ディスカッションやグループワークなど能動的な学びを取り入れ、社会人に協力いただくなど実践的な授業で就業力の強化に努めています。

- 人生 100 年のスパンでキャリア形成を考える科目
- 学業と職業の係りについて卒業生を交えて語り合う科目
- コミュニケーション力や異文化適応力を鍛える科目
- 民間企業の方を講師に迎え企業が抱える現実課題の解決策を提案するプロジェクト型科目

加えて、学生が主体的に学びを構想できるよう、ポートフォリオ・システム（学生が学修内容を記録し内省する Web ツール）を全国の大学に先駆けて導入し、活用を図っています。

これら一連の活動を支えるのが、本学で「学生 IR」と命名し推進している、入学から卒業後まで一貫して学生にフォーカスした IR (Institutional Research) です。半年ごとの全数調査により全学生の学修・生活行動を分析し、課題を抽出して教育改善に活かしています。卒業生・就職先の調査や海外駐在員へのインタビュー調査により産業界のニーズを継続的に把握し、グローバル化に適応できる人材を輩出できるようキャリア教育に反映しています。

コロナ禍の影響で学生生活、学生の意識は大きく変化しつつあります。New Normal 時代の新たな大学教育のありかたが求められてもいます。そうした学生の声を学生 IR 調査から取り入れつつ、キャリア教育科目では双方向ライブ配信授業など対面に近い授業を提供してきました。一般社会においても、テレワークの普及などこれまでと異なる働き方が求められるようになりました。労働環境のみならず人々の働く意識、さらには人生観も変容しつつあります。キャリア教育はそうした社会の変化にも対応していかなければなりません。

本学は「就職に強い大学」、卒業生は「着実に仕事を遂行でき安心感がある」等、社会の評価を得てきました。ここに紹介したキャリア教育をさらに発展させ、学生の皆さんの卒業後の人生がより有意義なものになるよう、今後も努力してまいります。

## ● グローバル人材養成科目「グローバル化と日本人」のオンライン授業風景



対面とオンラインと、それぞれのよさを踏まえた授業設計に努めています。異文化対応の実態を聴く授業回では、海外駐在中の社会人とオンラインで結んで生の声を届けます。



## 横浜国立大学キャリア・サポートルーム

現在の4年生である2023年卒学生の就職活動は引き続きコロナ禍の下、一次面接はオンライン、最終面接は対面など様々な形式が実施されていました。その流動的な就職活動の中で、学生達は状況に応じる対応力を求められたように思います。

また活発化していたインターンシップは、本選考にも影響を及ぼすようになり、学生達は夏休みに参加すべく積極的に選考に応募していました。ただ想定より選考が通過しにくく、苦勞していく過程で就職活動の厳しさを味わったようです。その経験をばねに秋以降の本選考に臨む学生が多かったように思われます。

大学主催で企業を招き、業界・企業研究を目的とした説明会を複数回開催しました。また校友会との共催により、地元企業の協力を得て企業人事による面接練習会を実施しました。さらに各学部同窓会との共催により、OB・OGによる模擬面接会を実施しました。オンラインをメインにしながら、感染対策をした上で前年よりも対面でのイベントを増やし、企業と学生双方が満足してもらえるように実施いたしました。

そして現在2023年卒の学生の多くは内定を得て、内定率は2022年11月時点で文部科学省発表の全国平均を上回っています。キャリア・サポートルームの利用者も少なくなっていますが、就職活動中の学生もおりますので、卒業まで継続して支援していきます。さらに次の世代2024年卒の学生に対しても変容していく就職活動に対応できるようサポートしていきます。

学部3年生以下の学生については、新型コロナウイルスが落ち着き始めた今年度春学期から対面授業の拡大や学内活動制限の緩和により、コロナ前にあった学生生活を取り戻しつつあります。秋学期には3年ぶりの学園祭も実施され、大学構内が賑やかに明るい雰囲気になりました。学生達には学修と生活の両面で充実した生活を送って自信を高め、弾みをつけてこれから本格化する就職活動に取り組んでもらいたいと感じ、我々もできる限りの就職支援を行っていければと考えています。

社会科学系同窓会である「富丘会」からは、経済学部と経営学部のOB・OGをキャリア・アドバイザーとして派遣していただき、「就職相談」において学生のニーズに合うようオンライン・対面のハイブリッド方式で実施しています。最近はインターンシップに参加するため低学年の学生の利用も増えています。

もしも、就職活動や将来について、お様が不安や悩みを抱えている様子があれば、些細なことでも相談に応じていますので、就職相談の利用を勧めていただけると幸いです。



現在のキャリア・サポートルームの様子。様々な資料の配布やOB・OG名簿閲覧用PCなどが設置されています。キャリア・サポートルームで行っている就職支援の情報は以下のURLからご確認いただけます。

<http://www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/career/student/>

# 文系からの大学院進学

経済学部 4 年 C さん

私は現在、卒業後の進路として大学院への進学が内定しております。大学院というと理系のイメージが強く、文系での進学は数 % ほどであると思います。では、私はなぜ大学院への進学を決意したのか、また、進学するにあたってどのような行程を経たのかを記していきたいと思います。

私が大学院進学を決意したのは、大学 3 年生の秋頃でした。大学 3 年生になると就職活動が始まり、インターンに参加したり、試験の勉強を行なったりすると思います。例に漏れず、私も就活を開始することになりました。しかし、就職活動を進めていく中で自身の中にある疑問が浮かんできました。それは、大学での学習とキャリアのつながりについてです。もちろん、全ての社会人が専門分野に関連した職業選択を行う訳ではありません。しかし、私個人のキャリア観として、大学での専門的な学習を将来のキャリアに繋げたいという思いがありました。また、私自身あまり要領の良い性格ではないため、4 年間の大学生活では満足のいく成果を得ることができなかったことも一因としてあります。

このように、かなり遅れて大学院受験への準備が始まりました。まず、大学院を受験するにあたって必要なことをいくつか説明します。

第一に、大学院への進学動機です。動機として考えられるのは、進路として研究者を検討している場合や、大学院レベルでしか学ぶ事ができない分野に挑戦したい場合など様々です。私の場合は後者でした。ただ、早期に進路を見据えている人は学部の段階から準備を進めることをお勧めします。第二に、志望校選択です。大学院に所属する先生やカリキュラムが自分の学習計画に合うことが大事です。試験のレベルなども大切ですが、志望校を選択する第一の理由はその大学院での学びに対する意義であると考えます。多くの大学院で入試の過去問等を入手することができるので、試験対策については努力次第で解決できます。最後に、試験対策です。私が一番苦労したのは試験対策でした。通常であれば、学部時代の研究の継続、発展が大学院へ進学するインセンティブになると思います。そのため、基礎的な知識の定着は進んでいると考えられます。しかし、私は学部での手法と異なる分野への進学を希望していたため、情報集めや試験対策などが大変でした。自ら行動し、多くの人の協力が必要になってきます。情報が少ないながら推薦書の執筆をしていただいた石山先生、少ない関わりの中推薦書を執筆してくださった居城先生には、この場をお借りして感謝申し上げます。

結局、余分に時間がかかってしまいましたが、大学院試験に通ることができました。コロナ禍ということもあり、通常と異なる試験形式に対応せざるを得なくなったり、将来への不安もありましたが、新たなスタートラインへ立てたことは満足しています。文系から大学院へ進学するというと、就職できない、意味がないなどのネガティブな情報を耳にすることも多いでしょう。また、前例が多くないため進学準備において正解が分からないこともあります。しかし、大学という場は学びを求める人のサポートを惜しみません。少しでも進学に興味があるのであれば、一人で悩まずに周囲の人に相談してみてください。在学生の皆さんは、同年代の学生が就職していくのを見て焦る気持ちも生まれるかもしれません。ですが、自身のステップアップのため、進学という選択肢もあるということを心に留めておいてください。